

平成30年度
(公社)日本ホッケー協会中学校部会
第2回常任委員会議事録



期 日:平成31年2月23日(土) 13時00分～

会 場:埼玉県飯能市立美杉台中学校

〒 357-0041 埼玉県飯能市美杉台 5 丁目 3

TEL042-983-0121

参加者 (敬称略)

中学校部会会長:松原典生 (島根県:仁多中学校長)
副会長:富田正孝 (滋賀県:伊吹山中学校長)

常任委員:松村洋介 (東北) 前田弘美 (北信越)
大嶋寿美 (関東) 山本 誠 (東海)
柏本宏和 (近畿) 道端良之 (中国)
岩尾幸美 (九州)

常任委員会

- ・ 構成員 15 名
- ・ 出席者 14 名 (過半数)

規約 第 6 章 第 19 条に
則り本会は成立

U15 海外遠征事務局:幸田伸也 吉原荘二

中学校部会役員:馬場治男 (事務局長兼競技部長) 北島沙紀 (会計) 久保克敏 (事務局)

H31 年度全中大会 (滋賀) 事務局:高木淳司

H30 年度全中大会 (島根) 事務局:児島史朗

都道府県対抗 11 人制ホッケー選手権大会実行委員会 (中学校代表):谷伸一 (福井県)

協議事項

- (1) 第 48 回全日本中学生ホッケー選手権大会 (島根全中) について・・(大会事務局)
(中学校部会事務局)

・大会実行委員会から児島様に来ていただき、準備から運営面、また大会を通じてのまとめの報告があった。

特に、今年度は会場と宿泊先が離れていたこともあり (遠いところで約 1 時間)、1 日目終了後の抽選会を代理 (事務局側) で行ってほしいという要望があった。次年度以降については、代理抽選を依頼する場合は、中学校部会が作成をした代理依頼書を実行委員会事務局に提出し、承認をしていく形で認めていく。

- (2) U-15 オーストラリア遠征についてー報告ー

資料 1-1 1-2

・遠征報告

男女監督及び海外遠征事務局より、遠征の報告があった。

・江副記念財団助成事業補助金について

吉原海外遠征事務局より H31 年度に向けての補助金申請について説明があった。

(3) 第 19 回全日本都道府県対抗 11 人制大会について (実行委員会事務局)

2020 年以降の大会運営について

2019 年 (平成 31 年) で、福井県で行われている第 20 回全日本中学生都道府県対抗 11 人制ホッケー選手権大会の開催期限が終了するため、この間中学校部会では各ブロックのご意見を聞かせて頂き、開催地を検討してきた。結論として 2020 年以降についても開催の場所を福井県に継続をしてお願いをする形で中学校部会の意向をまとめた。



今回の会議で中学校部会の意見を 11 人制大会の福井県中学校代表の谷先生を通して伝えていただくことでまとまった。

但し、中学校部会側としても協力をできるところを福井県と模索しながらお願いをする。福井県に全てを任せるだけにならないようにするために、協力をできるところを伝える。

(4) 平成 30 年度「事業報告」及び「決算 (中間まとめ)」 (事務局、会計)

①平成 30 年「事業報告」～まとめ～

資料 2-1 2-2

事務局より事業報告 (別紙)

②平成 30 年「決算報告」～中間まとめ～

会計より決算報告 (中間) (別紙)

(5) 平成 31 年度中学校部会役員 (案) (事務局)

資料 3

- ・会長・・・次年度全中大会開催地(滋賀県)より校長先生にお願いする。
- ・副会長・・・32 年度全中大会開催地(静岡県)より校長先生にお願いする。
- ・常任委員、専門委員の交代について確認・・・基本は各ブロックに任せている。
次年度ブロック常任委員、専門委員を変更する場合は、旧常任委員で責任をもって 5 月の常任委員会までに事務局 (久保) まで連絡をする。

(6) 平成 31 年度「事業計画 (案)」及び「運営費予算 (案)」 (事務局 会計)

資料 4-1 4-2

①平成 31 年「事業計画 (案)」について

事務局より平成 31 年度事業報告 (案) (別紙) の提案

②平成 31 年「運営費予算 (案)」について

会計より平成 31 年度運営費予算 (案) (別紙) の提案

(7) 全国大会内規事項 (事務局)

資料 5

- ・ H31 年度以降の全中大会開催地について
 - H31 : 近畿ブロック開催・・・滋賀県
 - H32 : 東海ブロック (日本中体連がオリンピックの年で関東と順序入れ替え) 静岡県で決定
 - H33 : 関東ブロック (立候補の県より意向を確認し進める)
現在、下記 2 都県が手を上げてきているが・・・
 - ・ 埼玉県・・・運営能力はあるが、人工芝の老朽化
 - ・ 東京都・・・大井ホッケー場の存続のためにも開催することが臨まれているが、東京都にホッケー部のある学校がないことや中学校の大会を運営したことがないため心配あり。
※今年度中に、内定を進める
 - H34 : 東北ブロック (宮城県で内定)

- ・全中大会参加費について
全国大会を開催、運営いただくためには莫大な費用がかかる。その一部を大会を開催いただく市町村に補助金として頂いている。大会を開催いただく地元の負担を少しでも軽減できるよう、また今後多くの都道府県で全中大会を開催して頂けるように参加費の値上げを行う。

平成31年度の大会より全国大会の参加費を20,000円から30,000円に上げる。この件については、各ブロックの常任委員が各ブロックで全国大会の大会予算書等を確認しながら、理解を得る説明を行う。

- ・全国大会のシード権について <方法の確認（シードが9チームの場合）>
 - ①昨年度の全中でベスト4に入った府県ブロックを先に分ける。
 - ②その後、各ブロックのシード校をランダムに抽選する。但し、予選会を行わずに全中に参加をしている府県はシード扱いをしない。
よって、シードが9チームになった場合は1つのブロックの中にシード校が2つに入る所ができる。

例>来年度

具体的には・・開催地枠と今年度のベスト4に入ったブロックは、同ブロックにシードチームが2つ入らないように抽選をする。

平成30年度男子ベスト4 優勝：横田（中国） 準優勝：篠山丹南（近畿）
3位：伊吹山（近畿）、川西（東北）
H30 開催地枠 滋賀（近畿）

平成30年度女子ベスト4 優勝：稲羽（東海） 準優勝：朝日（北信越）
3位：沼宮内（東北）、瑞穂（近畿）
H30 開催地枠 滋賀（近畿）



上記結果により、平成31年度の男子については、開催地枠と中国ブロック、近畿ブロック、東北ブロックの1位の4チームについては、先に抽選を行い、この4チームについては同一ブロック内に入らないようにする。その後、他ブロックの1位を抽選する。※近畿ブロックの1位が開催地枠と重なった場合は近畿ブロック2位がシード枠に入る。

- ・決勝トーナメントの組み合わせ抽選
決勝トーナメントの組合せについては、全ての予選リーグの試合が終了した時点で抽選を行っている。次年度もこの方法でおこなう。

・各ブロック参加枠数の決定

資料6

全国大会内規に則り、昨年12月末時点の登録チーム数（ブロックまたは県予選に参加をしているチームで「個人登録料」を支払っているチーム数による比例配分により参加枠を決定した。

平成31年度全国大会（滋賀大会）の参加出場枠

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	優勝枠	合計
男子	0	3	4	3	2	4	3	1	2	1	1 中国	24
女子	0	3	4	4	2	4	3	1	1	1	1 東海	24

平成29年度より、全中出場ブロック枠を最大「4」にする方向で、H28年度、協議を進めてきた。H28第2回目の常任委員会までに、常任委員会が各ブロックからの意見を聞き、概ね最大「4」で了承いただいた。

次に、その削減をした参加枠を、どのように配分するかという議論を重ねる中で、「前年度優勝ブロック」に1枠を与えるという案で決定した。（平成28年度末）

しかし、「前年度優勝ブロック枠」については、平成29年度当初の段階で周知できていなかった内容であることから、この「前年度優勝ブロック枠」の運用については、平成30年度から実施することとした。

よって、平成30年度より「最大4」+「前年度優勝枠（1）」を上限として実施する。（なお、地元開催枠は継続）



H29年度全国委員会で確認・了承事項のためH30年度より運用

(8) 第49回全日本ホッケー選手権大会・・・・・・・・・・（滋賀県大会実行委員会）

・「実施要項」「競技運営規程」「会場関係」

別刷資料あり

・宿泊・弁当要項について

など現在の状況報告を頂いた。

*全中大会および11人制大会の宿泊についての留意事項

- ・大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。
- ・弁当については、以前より希望制としている。
- ・全中大会では大会初日（開会式の前）に公式練習を設ける。

(9) 競技部・審判部より・・・・・・・・ 2月10日、11日におこなわれたルール研修会の伝達
＝競技部（馬場競技部長）より＝

- ・アンダーウェアに関すること
- ・登録規定および新登録システムについて

＝審判部（平尾審判部長→代理：馬場競技部長）より＝

- ・ルール統一研修会(2/10-11)の伝達講習

※今後、中学校部会（中学校を指導していただいている先生方）から競技部と審判部に入っただけの人材を育成、選んでいく

(10) その他

- ・合同チーム編成条件の再確認
 - * 学校長の承認は必要。・・・学校管理下による大会実施を守る。
 - * 必ず教員による引率であること。
 - * 合同チームとして認められる範囲は、活動実績のある3チームまでとする。
 - * レンタルによる合同チームについては全中大会では認めない。

合同チーム申請の流れ

4月に中学校部会 HP に「合同チーム申請書」をアップする。



5月（第2週目の土曜日を締め切りとする）までに申請書を提出
事務局（申請書提出）と各ブロックの常任委員に報告

- 公印の押された者を提出する。押されていない者は認めない。
- 提出先は、基本事務局とする。常任委員が常任委員会当日に持参する場合は、公印の押された申請書の FAX を事務局まで期限までに提出すること。



第1回目の常任委員会で確認・承認

* 合同チームについて（各ブロックの状況交流）

- ・ジュニアユース U15 日本代表チームについて・・・（遠征事務局）
 - ・選考会について、遠征の概要について現時点でわかっていること
 - ・次年度については栃木県のホッケー場1面が張り替えを行われるため男女別会場で選考会を開催する。
 - 男子：栃木県日光市立ホッケー場
宿泊先：今市青少年スポーツセンター
 - 女子：京都府グリーンランドみずほホッケー場
宿泊先：京都トレーニングセンター
- ・九州タレント発掘・育成コンソーシアム事業からの協力要請について
 - ・・・（事務局長、九州ブロック常任委員：岩尾）
 - 1) 2/3 九州より担当者（徳重氏）が説明・依頼のため埼玉県に来県
 - 2) 門を広げるための調整
 - 3) 担当者（事務局長、九州ブロック常任委員・専門委員）
- ・普及委員会からの提案について

連絡事項・その他

- ・次年度第1回目の常任委員会の日程確認
令和元年5月19日（日） 場所：東京都・岸記念体育会館